

平成22年9月

足立正 学位論文審査要旨

主 査 大 野 耕 策
副主査 中 込 和 幸
同 中 島 健 二

主論文

Neuropathological asymmetry in argyrophilic grain disease

(嗜銀顆粒性疾患における神経病理学的左右差)

(著者：足立正、齊藤祐子、初田裕幸、舟辺さやか、徳丸阿耶、石井賢二、新井富生、
沢辺元司、金丸和富、宮下哲典、桑野良三、中島健二、村山繁雄)

平成22年 Journal of Neuropathology and Experimental Neurology 69巻 734頁～744頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は高齢者連続開頭剖検例を用いて、嗜銀顆粒性疾患の病理学的左右差および形態・機能画像の左右差を検討したものである。その結果、嗜銀顆粒性疾患は高頻度に病理学的左右差を呈し、その左右差は形態画像、機能画像に反映され、さらにアルツハイマー病と比較してより高頻度に認められ、疾患特異性があることが判明した。本論文の内容は、認知症の臨床病理学的解析の分野で、嗜銀顆粒性認知症が病理学的に左右差を伴い、それが形態機能画像に反映されることを示し、臨床診断の一助となる可能性を示したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。